



☆いつもご支援いただきありがとうございます☆  
☆AMDA 兵庫県支部はネパール子ども病院の支援を柱に、2010年度はこんな活動をしました☆

## 小林麻衣子、AMDA-MINDS ネパール事務所、事業統括

※平成 20 年より日本本部ならびに現地にて AMDA-MINDS ネパール事業の事業統括として活動。現在も現地にて、AMDA ネパール支部との連携事業を統括。

AMDA-MINDS のスタッフとして初めてネパールに来た 2008 年 7 月から、早いもので 3 年近くが経とうとしています。当時は、ネパール語はおろか、ネパールの右も左も分からずにいた私ですが、2011 年 2 月からは事業統括を任せていただけることとなりました。私自身まだまだ発展途上にあるのですが、日本とネパールにいる全ての関係者の方々のお陰で、少しずつ前に進んでおります。

昨年度は、以下の事業を実施しました（実施中のものを含む）。

1. 「子ども病院周産期ケアにおける人材研修及び医療機材の配布」国際ボランティア貯金配分金による事業（2010 年 4 月～2011 年 3 月終了）
2. 「シッダールタ母子専門病院周産期医療向上事業」日本 NGO 連携無償資金協力（2011 年 3 月 11 日～実施中）
3. 「ナワルパラシ郡 4 行政村における母子健康改善事業」JICA 草の根技術協力事業（2010 年 11 月～実施中）
4. 「ルパンデヒ郡 16 村における住民能力強化を通じた母子健康増進事業」日本 NGO 連携無償資金協力（2010 年 11 月 19 日～実施中）
5. 「歯みがきプログラム」リカルデント（2010 年 5 月～2011 年 3 月終了）
6. 「ネパール東部ジャパ郡における周産期ケア向上支援」フェリシモ（2010 年 3 月～2011 年 2 月終了）
7. シノハラ奨学金事業



今年度以降も引き続き、対象地域の母子の健康向上を目的として、病院での周産期医療・ケア向上のための活動と、コミュニティにおける予防及びリスク軽減のための活動の二つを主軸にしています。子ども病院では周産病棟の建設が始まり、サービスの拡大に伴って人材育成にも取り組んでいきます。コミュニティの活動では、既存のリソースやネットワークを活用しながら、お母さんたち自身の力で母子保健のリスクに強いコミュニティを作っていけるようサポートを行います。



私自身にとって、昨年度は「凌ぐ」ことの多かった一年でした。事業規模の拡大に伴って、関係者の合意のもとで実施体制を確立する必要があり、何もかもが思う通りには進まないネパールで、1 歩進んで 2 歩下がる、の繰り返しだったように思います。お陰で、ずいぶんと忍耐強くなりました。

今年度は、活動内容そのものにもより深くかかわりながら、ネパール事業全体の質の向上に貢献したいと思っています。

## 高杉尚志医師、石原正行医師、高知大学医学部小児思春期医学教室

※平成 23 年 1 月 27 日～2 月 9 日 国際ボランティア貯金寄附金配分事業「周産期医療専門家」として活動。

2010 年の初回訪問から約 1 年後の今回、再び AMDA ネパール子ども病院を訪問した。病院の医療従事者を

対象に、①新生児蘇生法トレーニング（2回開催、延べ42名受講）、②小児救命トレーニング（PBLIS\*とPALS\*、2回開催、延べ31名受講）、③カンガルーケア導入サポート（1回開催、11名受講）、④新生児黄疸の講義サポート（1回開催、15名受講）、⑤小児科回診・外来でのOJT\*（6日間）を実施した。また、患者に対する小児メンタルケアワークショップを2回開催し、5S\*活動にも参加した。

新生児蘇生法トレーニングでは、AHA\*の2010年版 Newborn Resuscitation Algorithmを白黒コピー配布し、Power pointで作成したスライドに従って講義を行った。アルゴリズムの説明後に、タオルや吸引器、アンビューバッグ、ベビーマネキンを用いて、ケースシナリオでトレーニングする形をとったが、人前に出て実習する事にかなり抵抗もある様子であった。それでも体を動かして進めていくことで、周りからの掛け声や冗談の笑いもあり、大変楽しくトレーニングを行なうことができた。新生児蘇生のアルゴリズムの拡大版を分娩室と新生児室に掲示してもらうように依頼しているが、出生直後の新生児にこのアルゴリズムが正確に行われるには、医師、助産師、看護師の相互トレーニングが必要だと感じた。



今回の訪問における最大の収穫は、事前にメールやスカイプを用いて現地ニーズを聴き、明確な訪問時の活動計画を立てて実行出来た事、病院スタッフと人間関係が築けた事の2点だった。今後も定期訪問（可能なら双方向）を行って、交流を深めたいと考えている。一方、何が提供できるのか？何を提供すべきなのか？何が望まれているのか？何をやる事ができるのか？ということは常に柔軟に考えていく必要があることも痛感した。（以上、活動報告書から一部抜粋）

## 上住純子看護師

※平成22年9月17日～25日 国際ボランティア貯金寄附金配分事業「周産期ケア専門家」として活動。

現地では看護ケアの現状と課題、及び改善のための指針と方策について調査した。院長と各部署の看護師長との現状把握のためのミーティングでは、各参加者が問題と捉えていることについて聞き取りを行った。「マンパワーが不足している。患者に親切に優しくするにはゆとりも必要」「トレーニングを積極的に受けたい」「患者の家族が休む場所があって、キッチンがあれば、病院としてとてもよいサービスだと思う」といった声が聞かれた。また市場で、病院で診察を受けたことのある市民13名に聞き取りを行ったところ、「患者が増えて忙しいのだと思うが、医療スタッフが昔ほど親切ではなくなった」といった声も聞かれた。



病院内の現状把握も行った。NICU\*での看護ケアに関しては母子同室で、インキュベーターを導入し始めた2000年と比較すると現在は、ベッドが母親のためではなく、子どものために使用されるようになっていた。子どもに対してのモーニングケア（清拭など）が行われており、病院が準備したおくるみの使用、大型酸素ボンベの設置など、ケアの際の感染予防的対策や子どもの取り扱いを予防する対策などは、まだ改善の必要があるものの、以前よりも各段に技術も設備も向上していると感じた。看護師は日中3人体制の三交代制で、座る時間もない程よく働いていた。

小児科病棟での看護ケアに関しては、看護師による患者への声かけが良かった。看護学生への指導も看護師長を中心に積極的に行われており、将来のネパール人看護師育成へ貢献していると思われた。注射をする時の声かけもやさしく、患者が無駄に怯え、暴れて泣くような事はなかった。また、物品もきちんと整理されており、使用後の注射針なども事故の起らないように工夫されていた。

これら調査をもとに、現在スタッフの関心が高い、看護ケアマニュアルの改訂や保健教育の質の充実等を優先課題として、川嶋看護師に引き継いだ。今後は、子ども病院の将来像の確認と共有、病院スタッフによる問題分析と計画立案、日本人医療従事者の派遣などが、優先順位の高い協議事項と思われる。（以上、活動報告書から一部抜粋した文章をもとに作成）

## 川嶋佳子看護師

※平成 22 年 9 月 17 日～平成 23 年 2 月 21 日 国際ボランティア貯金寄附金配分事業「周産期ケア専門家」として活動。

約 5 ヶ月間、現地スタッフのニーズや意見、強みを取り入れながら、現地スタッフの主体的な活動の促進を念頭に置き、主に母子保健啓発活動や OJT\*、看護スタッフの外部研修受講後の院内伝達支援、看護ケアマニュアルの改訂を中心に取り組み、周産期サービス改善を目指して活動した。

院長の看護ケアマニュアル改定に関する提案を受け、ワーキンググループ承認の上で、同改定を行った。まず、ワーキンググループ会議を開催し、「看護の質のコントロール・ベースライン底上げが、母子に優しい適切な看護を提供する素地となる事」「各項目はスタッフ作成とし、責任者・代理マトロン・各科医師・院長による内容確認をスタッフにフィードバックして手直しする事で、院内リソースによる看護職員教育につなげてくこと」を共有した。編集は代理マトロンをメインに、ワーキンググループ、院長・事務長とともに実施し完成した。ワーキンググループからは、今回の作業を通じて看護ケアマニュアルをどのように作成していくか学ぶ事が出来たといった発言が聞かれた。今後、看護ケアマニュアルを定期的に改定するよう助言した。



活動期間中、篠原医師の遺影の前にたたずむ患者父子、今までの専門家の助言と現在の活動を誇らしげに語る現地スタッフを目のあたりにした。開院から 12 年の時が過ぎ、国の状況や人の入れ替わりとともに変化してきた病院で活動できたのは、今までに同院に関わった全ての方々のおかげだと感じている。(以上、活動報告書から一部抜粋)

## 木下智、AMDA-MINDS ネパール事務所、周産期病棟建設事業調整員

※平成 23 年 2 月 22 日～3 月 16 日 国際ボランティア貯金寄附金配分事業「評価アセスメント専門家」として活動。平成 23 年 4 月より周産期病棟建設事業調整員としてネパールに赴任。

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までの間、下記 3 点を目標とした事業が、平成 22 年度国際ボランティア貯金寄附金の配分を受け、AMDA ネパール子ども病院にて実施された。

- ①保健行政及び公立医療施設との連携促進
- ②AMDA ネパール子ども病院医療従事者の周産期ケアに関する理解・技術の向上
- ③「妊産婦が親しみやすい周産期ケアサービス」をコンセプトにした病院スタッフの自主的な取り組みの促進。



①に関しては、保健行政ならびに公立医療施設の職員を含む推進協議会が催され、事業の進捗状況が共有された。また、当初予定していたワークショップの共同開催は実施できなかったが、事業で作成した各疾病のパンフレットなどを共有することによって、各関係機関の理解を得たことは評価できる。②に関しては、高知大学の高杉医師・石原医師をはじめ各種専門家を現地に派遣し、実習を含む各種研修を開催した事

を通じ、病院スタッフの周産期に関する知識・技術が向上した。また、SBA\*研修を受講した病院スタッフが、同僚にフィードバック研修や OJT\*を行っている。③に関しては、人員不足で厳しい中、川嶋専門家の主導により、看護スタッフたちが勤務外や空いた時間を利用し、「看護マニュアルの改訂」「母親学級の計画・実施」「5S 活動の推進」など、自主的な取り組みが芽生えてきており、大きく評価できる。



出張中、妊産婦、産後の女性とその同伴者 35 名に対して、病院サービスに関するアンケートを行った。インタビューに答えていただいた受益者の多くは、病院の清潔さ、医師からの説明など医療サービスに満足を示していた。一方、院内のスペースやベッド数など物理的な限界のために、出産を迎える妊婦へのプライバシーの配慮に関し、改善の余地があるという声も聞かれた。また、今後、受益者



の期待として、病院敷地内の環境整備やトイレがもっと清潔になればいいのにという声も聴かれた。このように様々な改善点が残るものの、このボランティア貯金寄付金配分事業を通して、「妊産婦が親しみやすい周産期ケアサービス」を提供できる環境へとまた一歩近づいている事は確実である。

多くの方々の想いの詰まった AMDA ネパール子ども病院と、皆様との橋渡しとなれるよう、今後、最善を尽くしていきたい。

【略語説明】AHA=American Heart Association (米国心臓協会)、NICU=Neonatal Intensive Care Unit (新生児特定集中治療室)、OJT=On the Job Training (実地訓練)、5S=整理、整頓、清潔、清掃、しつけの各頭文字 (S) を取った用語、PALS=Pediatric Advanced Life Support (小児二次救命処置法)、PBLIS=Pediatric Basic Life Support (小児一次救命処置法)、SBA=Skilled Birth Attendant (有資格助産師)

【補足説明】

国際ボランティア貯金寄付金配分事業=郵便貯金の利子の一部が寄附され、それを日本郵便公社がまとめて国内の民間団体が実施する海外援助活動に配分するもの。平成3年1月に全国の郵便局で取り扱いが開始。郵政民営化に伴い、国際ボランティア貯金制度は終了したが、寄附金の残額を現在、独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構が担当し、配分している。

＝AMDA 兵庫県支部活動記録＝

- 4月29日 淡路市国際交流協会主催「国際教養講座」で講演 (鈴記)
- 5月1日 AMDA 兵庫県支部総会
- 6月6日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 7月18日 淡路市役所インターネット放送局のインタビュー (鈴記)
- 8月7日 兵庫・ヒューマンフェスティバル 2010 in 淡路島に参加出店 (鈴記、中田、桶川、小林、早瀬)
- 8月27日 淡路市国際交流協会桜井智也様が絵本「ありがとうね」を使った「小学校外国語活動指導者養成講座」に参加 (桂木、鈴記、早瀬)
- 9月5日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 9月10日～10月10日 ネパール写真展 (押田)
- 9月28日 人権啓発事業「第1回北淡支部保育所部会学習会」で保育園関係者、保護者への講演 (鈴記)  
ムネ製薬との調印式 (鈴記、AMDA－minds 山上、AMDA－minds 田中)
- 10月5日 北淡中学校人権集会で講演 (鈴記)
- 10月16日 神戸女子大学公開セミナー参加 (中山)  
毎日国際交流賞授与式参加 (江口)
- 10月31日 「兵庫県国際交流協会 20周年記念事業リレーセミナー in 淡路」で講演 (鈴記、早瀬)
- 11月20日、21日 神戸女子大学祭参加 (中田)
- 12月6日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 1月16日 「仁井文化祭」で講演 (鈴記)
- 2月5日、6日 ワン・ワールドフェスティバル参加 (江口、鈴記、桶川、中田、押田、藤本み、桂木、早瀬、藤本あ)
- 3月3日 大阪ガスともしびクラブカフェテリア募金授与式 (江口)
- 3月6日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 3月12日～13日 東北震災 AMDA 兵庫県支部先遣隊 (小倉一医師、鈴記一医師)
- 3月14日～16日 AMDA 本部に合流、第4次派遣隊仙台市 (鈴記一医師)
- 3月14日～21日 AMDA 本部に合流、第4次派遣隊仙台市 (小倉一医師)
- 3月17日～23日 AMDA 第6次派遣隊釜石市・大槌町 (桂木一薬剤師)
- 3月17日～29日 AMDA 第6次派遣隊釜石市・大槌町 (早瀬一助産師)
- 3月24日 神戸市薬剤師会臨時総会で講演 (江口)
- 3月26日～29日 AMDA 第14次派遣隊釜石市・大槌町 (江口一医師、鈴記一医師、藤本あ一看護師)

＝ネパール支援 ご寄付 (敬称略)【平成22年4月1日～平成23年3月31日】＝

国際ソロプチミストささやま、樽谷千津子、藤井真理子、松宮千枝、小寺 (国際ソロプチミスト)、マジックミシン清水、小林真也子、桜井智也、人形寺祥弘、平本邦子、新井義雄、はまの医院、水の都病院、豊中脳神経外科クリニック、北淡震災記念公園、北淡中学校、尾崎小学校、富島小学校募金箱、大阪ガスともしびクラブ、ダ・カーポ音楽事務所、神戸市薬剤師会、加古川平成ロータリークラブ、奇兵隊、ヨシオカ写真展

＝東北震災支援 ご寄付 (敬称略)【平成22年4月1日～平成23年3月31日】＝

日本助産師会兵庫県支部 (ベビー・マタニティ用品)、医療法人社団紀洋会岡本病院 (血糖測定器・薬剤)、公立学校共済組合近畿中央病院 (手袋・エプロン・手指消毒剤)、淡路薬剤師会 (薬剤)、ムネ製薬 (薬剤)、近畿中央病院 (ストマー装具一式)、伊丹恒生脳神経外科病院、パン工場なないろ (福祉苑リーベの会)、奇兵隊、金長青果、寺嶋商店

AMDA 兵庫県支部：所在地 〒673-0896 明石市日富美町 5-16 ハリマビル 3階 にじ作業所内

メールアドレス [amdahyogo@yahoo.co.jp](mailto:amdahyogo@yahoo.co.jp)

定例会 毎月第一土曜日 毎日新聞社神戸支局 3階会議室にて